

小児・AYA世代のがん (Cancer in childhood, adolescents and young adults)

■ 罹患の状況 (2022年12月7日現在の統計値による)

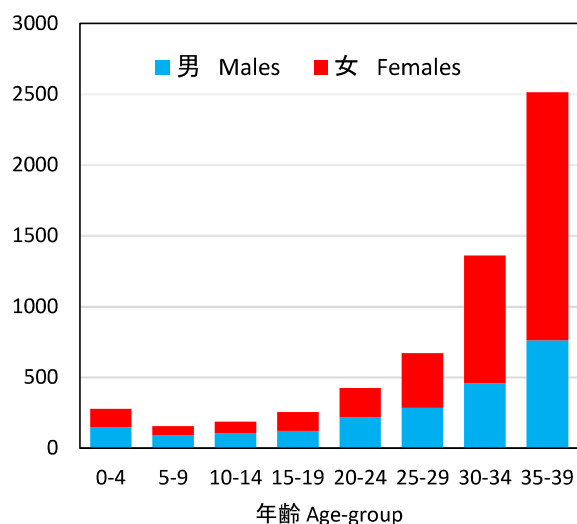
2016年から2019年の4年間にがんと診断された人数(男女計)は、0-14歳で618人(性別不詳1名含む)、15-19歳で255人、20歳代で1095人、30歳代で3,874人であった。小児がん(0-14歳)の罹患率(粗罹患率)は男女計で15.4(人口10万人あたり)であった。同様にAYA世代のがん罹患率は15-19歳で17.0、20歳代で32.8、30歳代で102.4(人口10万人あたり)であった。図に示す通り、罹患数(罹患率)は25歳を過ぎると飛躍的に上昇していた。

小児期における罹患率に性差はほとんどないが、女性の罹患率は15歳以上で男性より高くなり、15-39歳のがん症例の64%を占め、年齢が上がるに従って性差は増加している。

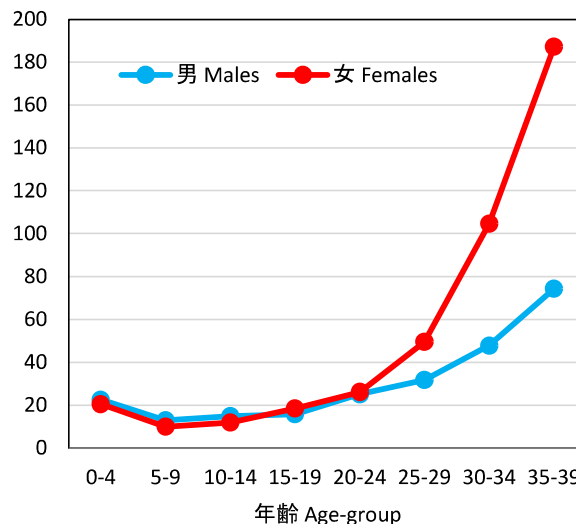
罹患数(2016-2019年)

年齢階層 Age group	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
男性 Males	148	90	105	122	219	283	458	761
女性 Females	128	66	80	133	205	388	901	1754

罹患数(2016-2019年)

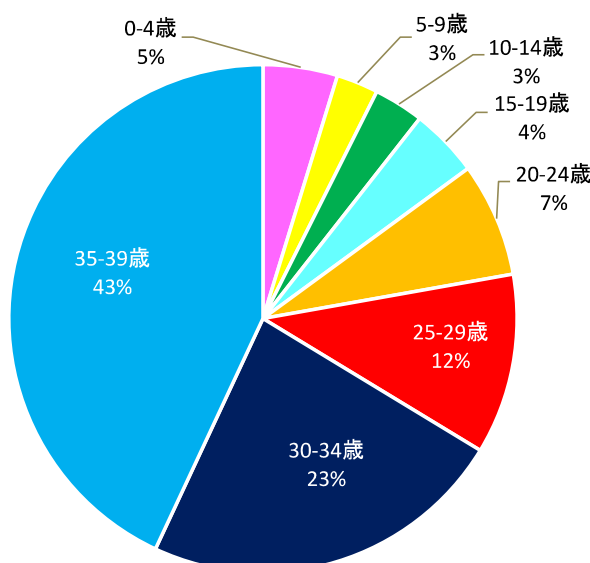


人口10万対 罹患率(2016-2019年)



年齢の割合

30-39歳で発症している人が40歳未満のがん罹患者の66%、AYA世代(15-39歳)のがん罹患者の74%を占めていた。



■ がんの種類について

小児期からAYA世代のがんを「国際小児がん分類」を用いて分類すると好発するがんの種類が年齢により大きく変わる。特に20歳代では、女性乳がん、子宮頸がんが増えてその変化が大きい。

年齢階級	1位	2位	3位
0-14歳	白血病(40%)	脳腫瘍(13%)	リンパ腫(11%)
15-19歳	白血病(23%)	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(17%)	リンパ腫(14%)
20-29歳	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍(16%)	甲状腺がん(14.4%)	白血病(13.7%)
30-39歳	女性乳がん(22%)	子宮頸がん(13%)	大腸がん(9%)

小児・AYA世代のがん種の内訳の変化

